コード	大項目	小項目	問題	解説
30252	鉄筋コンクリート構造	強度の割増	鉄筋コン ん断耐力 筋の材料 あっても， 確保する い．	
22112	鉄筋コンクリート構造	柱の設計	一般に，鉄 に作用す ど，せん断 下する．	
28112	鉄筋コンクリート構造	柱の設計	鉄筋コン 高めるた 対する柱 るように， た．	
22113	鉄筋コンクリート構造	柱の設計	一般に，鉄 の内法寸 大きくなり．	
19115	鉄筋コンクリート構造	柱の設計	（社）日本建 造計算規準 モーメント いて，短期 リート全断 トの設計基 が望ましい	
17125	鉄筋コンクリート構造	柱の設計	柱のコンク 全断面積の 行わない場 要以上に増 た．	
26303	鉄筋コンクリート構造	せん断補強筋	鉄筋コンク ん断補強の リートの拘束 ある．	
27124	鉄筋コンクリート構造	鉄筋加工	鉄筋コンク は，135度フ 溶接長さを 接とすること	
23134	鉄筋コンクリート構造	鉄筋加工	鉄筋コンク 補強筋の端 に，端部に9	

コード	大項目	小項目	問題	解説
17123	鉄筋コンクリート構造	梁の設計	梁において，長期荷重時に正負最大曲げモーメントを受ける断面の最小引張鉄筋比については，「0.4%」又は「存在応力によって必要とされる量の4/3倍」のうち，小さいほうの値以上とした．	梁の引張鉄筋断面積がコンクリート断面 ひび割れ発生とともに鉄筋が降伏し急激 があり危険である．それらを防止するた げモーメントを受ける断面では最小引張 地中梁など非常に大きな断面を持つ場合 くなり，また現実に断面の0.4%の鉄筋量を るので，存在応力による必要量の4/3倍 ができる．鉄筋コンクリート構造計算規準 全塑性モーメントの値より大きくなりやすい．→せん断力も大きくな
28143	鉄筋コンクリート構造	梁の設計	鉄筋コンクリート構造の「ルート3」の計算において，両端ヒンジとなる梁部材の設計用せん断力の割増し係数を1.2とし，両端ヒンジとならない梁部材の設計用せん断力の割増し係数を1.1とした．	鉄筋コンクリート造耐震計算ルート3の梁 QDG=Qo＋n・QMにより求めることができ したときの長期荷重によるせん断力，QM 断力，nは割増係数を示す．このとき，割 梁では1.1以上，それ以外の（両端ヒンジ する．両端ヒンジとならない梁部材の割 なるので不適当である．建築物の構造関 せん断力が大きくなる可能性がある
21123	鉄筋コンクリート構造	釣合鉄筋比	鉄筋コンクリート構造の柱の許容曲げモーメントは，「圧縮縁がコンクリートの許容圧縮応力度に達したとき」，「圧縮鉄筋が許容圧縮応力度に達したとき」及び「引張鉄筋が許容引張応力度に達したとき」に対して算定した曲げモーメントのうちの最小値である．	鉄筋コンクリート構造の柱の許容曲げモ リートが先に最大耐力に達する場合」， 力に達する（降伏する）場合」，「引張側の する（降伏する）場合」のうち，先に生じる つのケースのうち，値の小さい方で先に て許容曲げモーメントMとする．鉄筋コン はる2
26133	鉄筋コンクリート構造	釣合鉄筋比	鉄筋コンクリート構造の梁の許容曲げモーメントは，「圧縮縁がコンクリートの許容圧縮応力度に達したとき」及び「引張鉄筋が許容引張応力度に達したとき」に対して算定した曲げモーメントのうち，大きいほうの値とした．	鉄筋コンクリート構造の梁の許容曲げモ リートが先に最大耐力に達する場合」と 力に達する（降伏する）場合」のうち，先 り，上記2つのケースのうち，値の小さい 値をもって許容曲げモーメントMとする． 準 はる2つ．
28134	鉄筋コンクリート構造	釣合鉄筋比	鉄筋コンクリート構造の引張鉄筋比が釣合い鉄筋比を超える梁部材について，梁断面の許容曲げモーメントを，at（引張鉄筋の断面積）×ft（引張鉄筋の許容引張応力度）×j（応力中心間距離）により計算した．	梁の曲げに対する断面算定において， 筋比以下の場合，引張鉄筋が圧縮側コ 応力度に達することとなり，この時梁の 張鉄筋の断面積）×ft(鉄筋の許容引張 心距離)により計算できる．なお，引張鉄 る場合は，梁の圧縮側のコンクリート及 に許容応力度に達し壊れることになる． 準 at・ft・jが使える
19122	鉄筋コンクリート構造	釣合鉄筋比	鉄筋コンクリート構造において，梁の曲げに対する断面算定において，梁の引張鉄筋比がつり合い鉄筋比以下の場合，梁の許容曲げモーメントは，at（引張鉄筋の断面積）×ft（鉄筋の許容引張応力度）×j（曲げ材の応力中心距離）により計算した．	はりの曲げに対する断面算定において い鉄筋比以下の場合，引張鉄筋が圧縮 縮応力度に達することとなり，この時は at(引張鉄筋の断面積)×ft(鉄筋の許容 力中心距離)により計算できる．鉄筋コ 問題は，コード「15124」の類似問題です
26112	鉄筋コンクリート構造	終局曲げ耐力	鉄筋コンクリート構造の大梁の終局曲げ耐力を増すために，圧縮強度を大きくした．	梁の終局曲げ強度（終局曲げ耐力）Mu at：引張鉄筋断面積　σy：引張鉄筋 い したがって，大梁の終局曲げ耐力にコ ない．建築物の構造関係技術基準解説
27242	鉄筋コンクリート構造	強度の割増	建築物の保有水平耐力を算定する場合，炭素鋼の構造用鋼材のうち，日本産業規格(JIS)に定めるものについては，材料強度の基準強度を1.1倍まで割増しすることができる．	保有水平耐力の計算をする時，鋼材な 鋼材などがJIS規格品であれば，建告 れている基準強度の値の1.1倍以下の （平12）第2464号第3（この問題は，コ 26244」の類似問題です．）